

[通常機体] 数字 / タ G 「SEED-MSV」

105 ダガー / ダガー

機体名	<u>105 ダガー</u>	画像
型式番号	GAT-01A1	
英語名		
所属	地球連合軍	
パイロット	モーガン・シュバリエ	
装甲材質	ラミネート装甲	
装備	頭部 40 ミリ口径イーゲルシュテルン II × 2 M703 ビームライフル × 1 ES01 ビームサーベル × 2 212.5 ミリ対人機関砲 × 2	
作品名	SEED-MSV	
参考書籍	ホビージャパン 2004 年 4 月号電撃ホビーマガジン 2004 年 5 月号 SEED-MSV No.6 <u>105 ダガー</u> + ガンバレルキット解説書	

内容

キット解説書

105 ダガー（正式名称 GAT-01A1 ダガー）は、地球連合軍の量産型主力モビルスーツである。その開発の原型機となったのは、X105 ストライクだ。

105 ダガーは原型機 X105 のスペックに再検討を加え、動作が安定し扱いの簡単な新型 OS を搭載した。

その結果本機は、パイロットの能力を問わない操縦しやすいモビルスーツとなった。

当初は地球連合軍初の量産機となる予定だった 105 ダガーだが、戦局の急激な変化から軍部はこの機体をさらに簡略化した戦時省略型モビルスーツ、01 ストライクダガーの配備を優先させた。そのため、「初の量産機」の称号は幻に終わり、開発陣を落胆させた。

105 ダガーは X105 ストライクと同様、背部にストライカーパックを装備することができる。

戦場、戦況に応じてストライカーパックを換装することで、本機はどのような戦闘にも対応することが可能である。

コストダウンのため PS 装甲に代わって耐熱用融除材ジェルDPX - M30 の改良型を使用したラミネート装甲が採用された。

頭部の自動機関砲は、小口径化された新型の 40 ミリ口径イーゲルシュテルン II、また、両脚の甲の部分に 12.5 ミリ対人機関砲が装備されている。

戦時中の生産数は僅かに 23 機（システム実証機 1、プロトタイプ 2 機を含む）であったが、戦後もその生産と改良は継続中だ。

電撃 HM

同じ量産機であるものの、戦時省力型である「ストライクダガー」に対し、「01A1 ダガー」は連合軍の制式主力 MS である。

最大の特徴は「GAT-X105 ストライク」と同様、各種ストライカーパックが使用可能になっている

点。

戦時中にはわずかに 23 機が生産されたに留まったが、そのうち 1 機に " 月下の狂犬 "、モーガン・シュバリエが搭乗、ガンバレル・パックを装備して、大戦末期のボアズ攻略戦に参加した。「01A1 ダガー」はマイナーチェンジを繰り返しながら戦後にも生産され、ブロック 7 まで改良が進んでいる。

備考

スペック

項目	内容
全高	18.00 m
頭頂高	
全長	
重量	57.05 t
全備重量	
ジェネレーター出力	
スラスタ推力	
センサ有効半径	